

# ホイピピピピピ！

春を告げる渡り鳥、チュウシャクシギの命をつなぐ渡りルートを探る

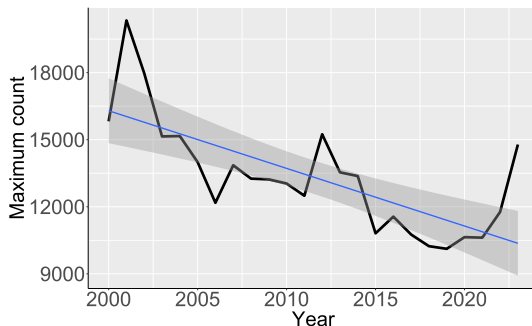
細谷淳<sup>1</sup>、田谷昌仁<sup>1,2</sup>、井上遠、仲村昇<sup>3</sup>

1.日本鳥類標識協会 2.東北大学 生命科学研究所 3. (公財)山階鳥類研究所

## 背景

長いくちばしと「ホイピピピピピ」という特徴的な鳴き声で親しまれるチュウシャクシギ (*Numenius phaeopus*) は、渡りの時期に全国で観察されます。しかし、他のシギ・チドリ類同様、**減少傾向**にあり (Amano et al. 2010)、現在8都府県で**絶滅危惧種**または**準絶滅危惧種**に指定されています。

減少の要因として、生息地の環境劣化や密猟が指摘されており (Amano et al. 2010; Aarif et al. 2021; Gallo-Cajiao et al. 2020)、特にカムチャツカでは**年間約37,078羽が狩猟される**と推定されています (Klokov & Matsyna 2023)。さらに近年は**洋上風力発電による影響**も懸念されています (Galtbalt et al. 2021; Watts et al. 2022; Schwemmer et al. 2023)。



日本のチュウシャクシギの減少 rtrimで作図  
データについては、環境省モニタリングサイト 1000 プロジェクトによる



チュウシャクシギ

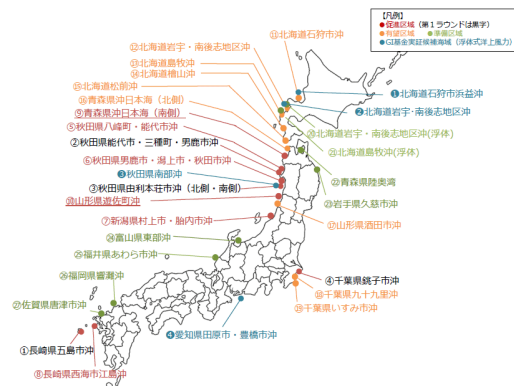
## 実は全然わかっていない！

- ・繁殖地はどこ？
- ・越冬地はどこ？
- ・中継地でも生息場所の詳細は？

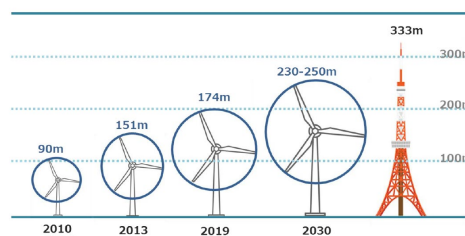
標識調査による日本のチュウシャクシギの移動情報は限定的で、越冬地としてオーストラリア東部 (2件) とソロモン諸島 (1件)、中継地としてロシア・カムチャツカ地方 (3件：うち1件は宮城県の標識個体が461日後に**猟銃で捕獲**) と中国東南部 (1件) で**海外回収は7件のみ**で日本のチュウシャクシギの**繁殖地は不明**です。また**国内での移動も6件のみ**です (山階鳥類研究所・標識

データ利用申請：山階保全第6-62号)。

他国での研究事例については、オーストラリア西部でPTTを装着された5個体中1個体が日本を経由しましたが、データ数が少なく詳細な経路は不明でした。さらに、飛行高度の情報も得られておらず、洋上風力発電との関係は分かりません (Kuang et al. 2020; An et al. 2024)。



再エネ海域利用法による促進区域など位置図



洋上風車の大型化  
両図とも「浮体式洋上風力発電の最近の政策動向について」経済産業省  
[https://www.nmri.go.jp/event/seminar/pdf/r41206\\_2.pdf](https://www.nmri.go.jp/event/seminar/pdf/r41206_2.pdf) より

**標識データの海外回収はわずか7件、EAAFでのトラッキング結果も日本を利用している個体は1例のみ**

チュウシャクシギは、干潟、入り江、水田、海岸の草原、砂浜など多様な環境を利用し（高野 1982; 渡辺2006）、夜間のねぐらも確認されています（桑原・石川 1991）。しかし、個体レベルでの具体的な環境利用パターンや、採餌場所と満潮時の休息場所の関係性は、保全上重要とされながらも（Zharikov & Milton 2009）、日本では未解明です。

国内でのチュウシャクシギのよく利用する環境やねぐらとの位置関係なども知られていない

## 明らかにしたいこと

### 1. 渡り経路の解明

- ・越冬地、繁殖地、中継地の特定
- ・ロシア極東地域（狩猟頻発地域）の利用実態把握

### 2. 洋上風力発電との関連性調査

- ・再エネ海域利用法の促進区域等における通過状況
- ・風車ブレード干渉高度での飛行実態

### 3. 国内生息地の利用実態

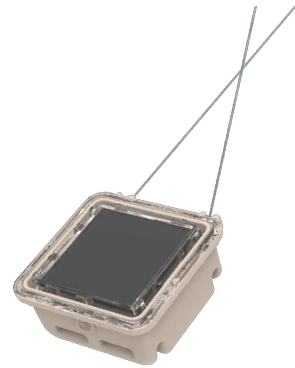
- ・重要な採餌場所の特定
- ・採餌場所とねぐらの関係性の解明



## 研究方法

宮城県鳥の海で春季のチュウシャクシギにGNSSデバイス

（Druid社のMINIまたはNANO）を装着します。4G回線またはBluetoothで再捕獲なしのデータ回収が可能で、**約5mの精度で位置と高度を記録**します。装着重量はハーネス込みでMINI 6.3g（体重比1.21-1.64%）、NANO 4.1g（同0.69-0.94%）です。先行研究ではMINIで1日5-20回の測位実績があり（Chung Yu Chiang 私信）、移動経路と生息地利用の解明に適しています。



Druid MINI

## 研究計画

2025年4月～5月: 捕獲とGNSSデバイスの装着

2025年4月～5月: 日本での主な利用場所を特定

2026年4月～5月: 中継地、繁殖地、越冬地の情報を取得

2026年以降: 十分なデータを取得し次第分析し、**学会発表・論文発表等で公開**

※支援金の振込とデバイス納品のタイミングによって1年遅れる可能性があります。

本研究は、日本のチュウシャクシギの不明な生態を解明し、特にロシア極東での狩猟や洋上風力発電計画との関連性を重点的に調査します。また、国内の生息地ネットワークを空間的に把握することで、効果的な保全施策の立案に貢献します。ご支援はGNSSデバイス購入に使用します。

**ご支援よろしくお願いたします！**

